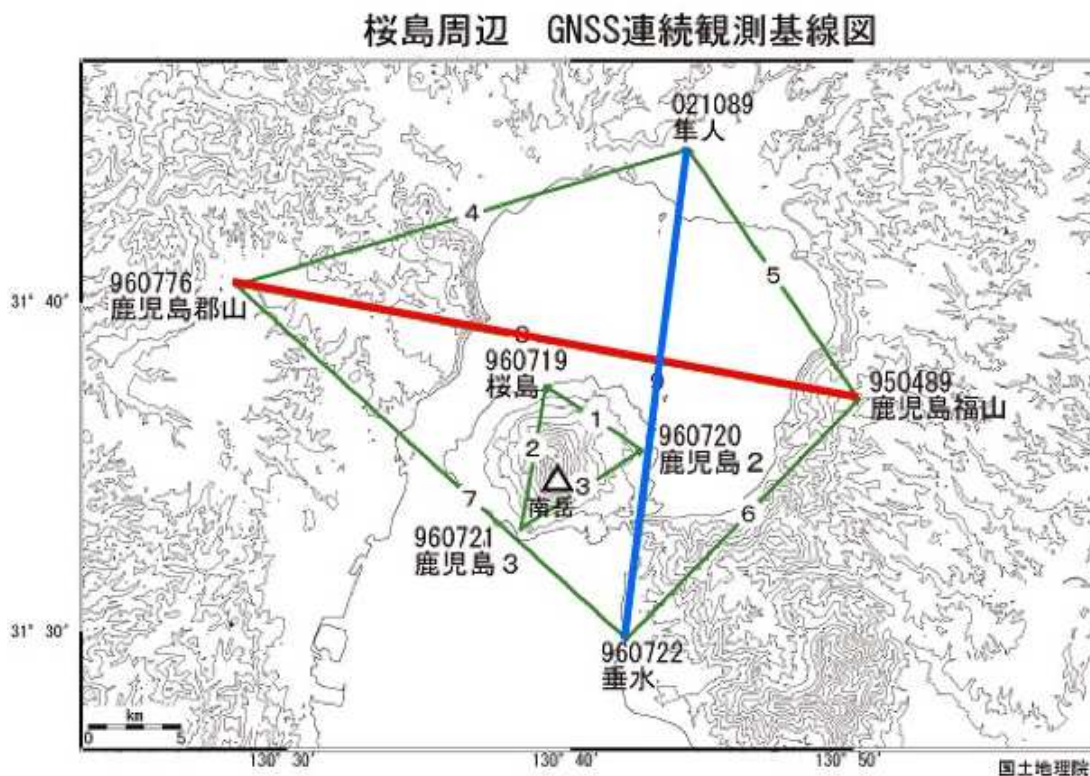


最近の火山活動について

2月17日のニュースで2件の火山関係の話題が取り上げられました。1つは九州の硫黄山の活動活発化と、小笠原・西之島の活動沈静化です。宮崎県と鹿児島県にまたがるえびの高原の硫黄山の噴火可能性が火山噴火予知連の定例会で指摘されました。硫黄山は2013年夏ごろより活動が活発化しています。また最後の噴火は1768年に発生しています。いずれにせよ九州はこの硫黄山だけでなく、桜島、さらに錦江湾そのものが始良カルデラというかつて超巨大噴火（破局噴火ともいいます）を起こした巨大な火口なのです。桜島も大隈半島と陸続きになった1914年の大正の大噴火から100年が経過し、すでに同じ規模の噴火を起こせる大量のマグマを蓄積している事が山体の膨らみからわかっています。

今後、九州の火山の話題というのは日常的なニュースとなる事は間違いありません。日本列島がこれだけ美しく、温泉などの資源に恵まれているのは、ある意味「火山の恵み」であり、日本人はこれからも火山と共生していかなければならない宿命なのです。

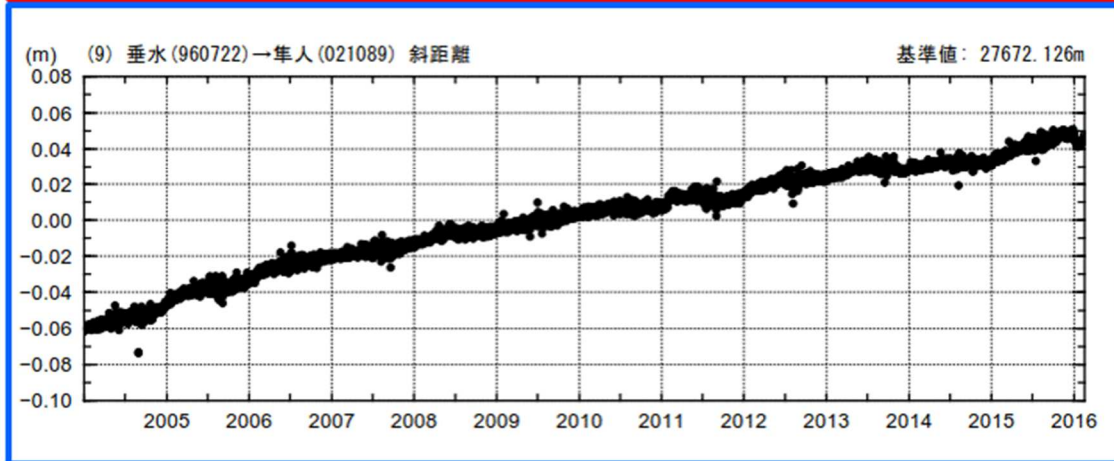
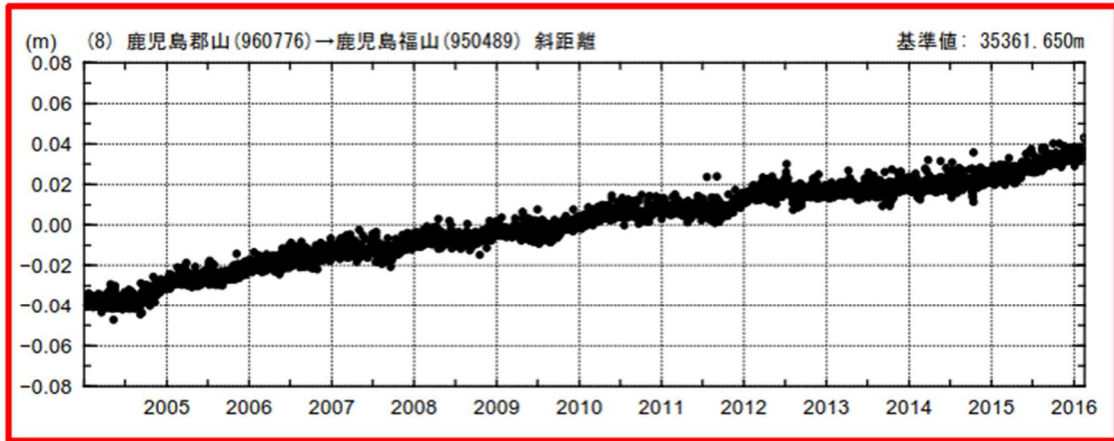
また次に示す2枚の図は国土地理院による鹿児島市、桜島を含む錦江湾周辺の地殻変動（2点間の距離の変化）を示したものです。下の図の赤と緑の長さ（基線長変化と言います）を次のページに示します。



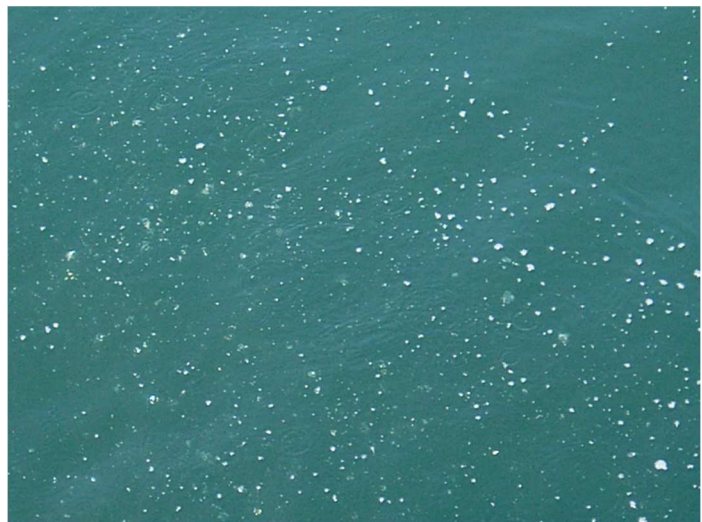
(国土地理院のウェブより)

次のページの赤と青で囲んだ図が前のページの赤と青の線の長さ（距離）がここ12年ほどでどれだけ変化しているかを示したものです。いずれも右上がりになっているのがわかります。赤の線（鹿児島湾を東西に横切る線）は12年間で8cmほど伸びている事がわかります。つまり錦江湾の下の海底が膨張しているのです。

同様に青の線（南北方向）も10cm以上伸びているのがわかります。



これらの右上がりのデータが意味するのは、錦江湾というのが約2万5千年前に超巨大噴火（破局噴火）を起こした始良カルデラがまだ活動している事を意味しています。実は錦江湾の中にはさらに若尊カルデラという火口が確認されており、そこからは火山性のガスが噴出しており、海面では海がたぎっているように見えることからタギリと呼ばれている現象が起きているのです（たぎりとは鹿児島弁で沸騰という意味）。



(インターネットより)

なお、次回のニュースレターでは全世界のマグニチュード8クラスを予測しているUCLAで開発されたM8の最新情報を紹介いたします。